

2019年4月2日付

建設通信新聞第14面(最終面)

施工経験の文章化が必須

今回は、1級・2級施工管理技術検定の2次試験である実地試験について、解説していく。

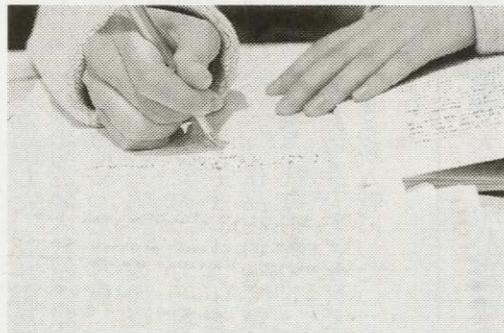
学科試験の問題は四肢択一式(マークシート式)であり、分からなくても解答さえすれば運よく正解になることもある。しかし、実地試験は記述式のため、偶然正解するということはほぼない。

■施工経験記述の攻略なしに実地の合格はない

実地試験の内容は大別すると『施工経験記述』と『施工管理法に関する記述』の2つに分類することができる。ここで初めて施工経験記述という問題を目にした方も多いのではないか。この問題は施工管理技術検定を象徴する特殊な問題であり、施工経験記述の攻略なくして実地試験の合格はないと言っても過言ではない。

では、施工経験記述とは具体的にどのような問題か。過去の工事現場における自身の経験を記述させ、実務経験の有無

建設現場を支える「施工管理技術士」
資格について知ろう⑤



と施工管理能力を判定するものである。実際の経験に基づいた記述が要求されるので、事実と相違していると判断された場合には大幅な減点もしくは最悪の場合、不合格となる。

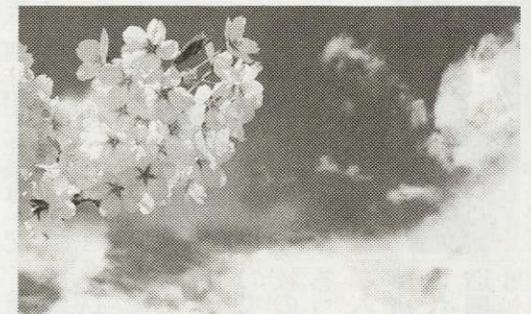
■経験記述は事前の準備がなければ書けない

経験記述の具体的な出題形式は科目によって異なるが、概ね『施工計画』『工程管理』『品質管理』『安全管理』『合理化』『環境対策』といったテーマが与えられ、その項目に則した自身の経験を

丸暗記では合格の道遠く…

記述文を自身の経験に基づいて作成	・忘れにくい ・後からの改善も容易 ・他のテーマへの応用がしやすい ・高得点が期待できる
参考書などの記述文を丸暗記	・忘れやすい ・誤った部分があっても気づくことができない ・応用がきかない ・不合格となる

テーマが予想と異なり何も書けなかった」といった経験がある方も多し。それに対し自分自身が作成した経験記述であれば試験会場でも忘れず覚えることができる。また、予想と異なるテーマが出題されても応用できる。第一、例文などを



ほしい。

努力すれば独学でも合格は可能だ。しかし、時間も大きな費用である。せっかくの学習時間を効果的に利用するために、短期で合格するためにプロが組み立てた講習会に参加することも考えてみてはどうだろうか。

本連載は今回で最後となるが、ことし第1回試験が実施される電気通信工事施工管理技術検定をはじめ、各科目の受験申し込みが始まるので忘れずにお申し込みしていただきたい。

皆さま方が受験対策を行い万全な状態で試験に臨み、実力を遺憾なく発揮され、合格の栄冠を勝ち取られることを心よりお祈り申し上げます。(おわり)

講習会で効率的な学習を

記述する形式が主である。知識の有無にかかわらず、突然その場で現場での経験を思い出し、一定水準の内容を記述するのは困難だろう。事前準備は必須であることを肝に銘じて学習してほしい。

■専門の講師など第三者の添削が不可欠
施工経験記述の答案作成にあたり、参考書などの例文を丸暗記しようとする受験生は少なくない。しかし、時間をかけて丸暗記しても、受験経験者の中には「例文をひたすら暗記し試験に臨んだが、ど忘れして書けなかった」「出題テ

転記した場合は、その時点で不合格である。

■「時間も費用、社会人が合格(うか)るには効果的な学習が不可欠

事前に準備が必要といっても何を準備すればよいかかわからず、無駄に時間を浪費する受験生も少なくない。そこで、プロが組み立てた講習会に参加することも考えてみてはどうだろうか。例えば、CICの講習会では専門講師が書き方の説明や施工経験記述の添削指導も行っている。ここで、経験記述の不安を解消して